

鈴木文治 労働運動指導者。{友愛会}を創立、ILO創設にも参画して急発展させ、労働運動右派の大御所として君臨。

すずきぶんじ

内閣発足・1885 = 宮城県栗原郡金成村で、麹業営む旧家鈴木益治の長男に生まれる。

帝国憲法発布1889 = 4歳 :

日清戦争始・1894 = 9歳 : この頃、父とともに受洗。

宮城県尋常中学校志田郡立分校(古川高校)に入学、

同郷の先輩吉野作造と終生親交、

卒業前後に、家業が傾き、

日比谷公園・1903 = 18歳 :

山口高校で苦学するうち、キリスト教伝道師本間俊平の影響で社会問題に目覚め、

日露戦争終・1905 = 20歳 :

東大入学後、吉野と同じ日本組合基督教会の本郷教会に属し、海老名弾正に師事。社会問題に関心を抱き、社会政策学会の支柱桑田熊蔵の影響を受ける。

伊藤博文暗殺1909 = 24歳 : 東京帝国大学法科大学を卒業。秀英舎(大日本印刷)を経て、

韓国併合・1910 = 25歳 : 東京朝日新聞社に入り、社会部に属して浮浪人研究会を組織し、貧民問題に没頭するうち、

大逆事件判決1911 = 26歳 : 退社してユニテリアン派の伝道団体たる統一基督教弘道会の社会事業部長に就任。

明治天皇没・1912 = 27歳 : *労働者講話会を始め、これを核に浮浪人研究会・社会政策学会会員の助力で友愛会を結成、会長となる。大逆事件後の官憲の社会運動圧迫のもと、労働組合としての発展に細心の注意を払い、労資協調と修養のための団結を説き、共済的研究的活動を行うにとどめたが、

21ヶ条要求・1915 = 30歳 :

渡米、

民本主義・1916 = 31歳 :

再び渡米して、AFL(アメリカ労働総同盟)と接触したことを契機に、団結権・ストライキ権を主張し始め、労働争議にも関係し、労働組合としての姿勢を強め、

本格政党内閣1918 = 33歳 :

会員数は2万2千に達した。第一次世界大戦後の労働運動の飛躍的発展と戦闘化の中で、

ハルビン条約・1919 = 34歳 :

「日本の労働問題」。大日本労働総同盟友愛会と改称し、会長独裁から大会選出の理事の合議制に改め、

原敬首相暗殺1921 = 36歳 :

*さらに日本労働総同盟と改称する。パリ平和会議に、国際労働法制委員会代表顧問として出席し、ILO(国際労働機構)創設に参画する一方、社会主義支持を公言し、友愛会設立直後から支持者渋沢栄一と絶縁するなど急進的姿勢を示したが、サンジカリズムに対しては、松岡駒吉らとともに組織の拡大と労働者教育の必要を説いて抵抗した。農民運動にも関係し、

水平社結成・1922 = 37歳 :

日本農民組合創立以来その運動を助け、

関東大震災・1923 = 38歳 :

理事、

護憲三派圧勝1924 = 39歳 :

日農関東同盟会初代会長に就任。この年のILO第6回総会を皮切りに、以後、四度労働者代表として出席、

治安維持法・1925 = 40歳 :

総同盟分裂後も会長に留まり、

円本時代始・1926 = 41歳 :

社会民衆党創立に参画、中央執行委員に選ばれ、

共産党事件・1928 = 43歳 :

初の普通選挙で総同盟の最大拠点大阪より当選。日農分裂後、日本農民組合総同盟会長となったが

世界恐慌・1929 = 44歳 :

引退。

海軍軍縮条約1930 = 45歳 :

*総同盟会長を辞任するまで、労働運動右派の大御所として君臨。

満州事変・1931 = 46歳 :

「労働運動二十年」。

五一五事件・1932 = 47歳 :

ILO第14回総会では副議長をつとめた。

二二六事件・1936 = 51歳 :

総選挙にも社会大衆党公認として東京より当選、

日中戦争始・1937 = 52歳 :

再び当選するが、

第二次大戦始1939 = 54歳 :

大政翼賛会・1940 = 55歳 :

斎藤隆夫代議士除名に反対して安部磯雄らとともに社大党を追われ、

日米開戦・1941 = 56歳 :

鳩山一郎らの同交会に加わり、翼賛運動に抵抗を示した。

敗戦・1945 = 60歳 :

敗戦後、日本社会党結成とともに顧問に就任したが、

新憲法公布・1946 = 61歳 :

総選挙出馬準備中、心臓喘息で、_没した。